憲照先生の手本ア・ラ・カルト(34)
（a・la・carte）

締切り　十月二十四日（必着）

昭和57年5月

目的に集中すれば
必ずその事を
成し得べし

つけペン・墨汁使用

★目的に…（書体＝楷書）
春日潜庵（一八一一～一八七八）
江戸末期から明治初期の陽明学者・儒学者
「如何に弱き人と雖ども、その全力を単一の目的に集中すれば、必ずその事を成し得べし」が全文。
どんなに強くて優れた人でも、あれやこれやと手を伸ばして力が分散してしまうと、どれ一つとしてきちんとやり遂げることはできません。
だらだらと学んだり働いたりするより、これと決めたら一心不乱に集中すれば、いかに弱い人でも大抵のことはものになるものです。

〔解説〕

◎本会は、今年で創立六十八周年を迎えます。まだまだ世の中は、新型コロナ禍の影響で、世界中が不安の中にいます。
しかしながら諸先生、会員の皆様の〝書〟への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。
◎今年の短期特別課題は、昨年同様『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。
お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。同一課題を楷・行・草の順で繰り返し、掲載していく予定です。
◎多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。
◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

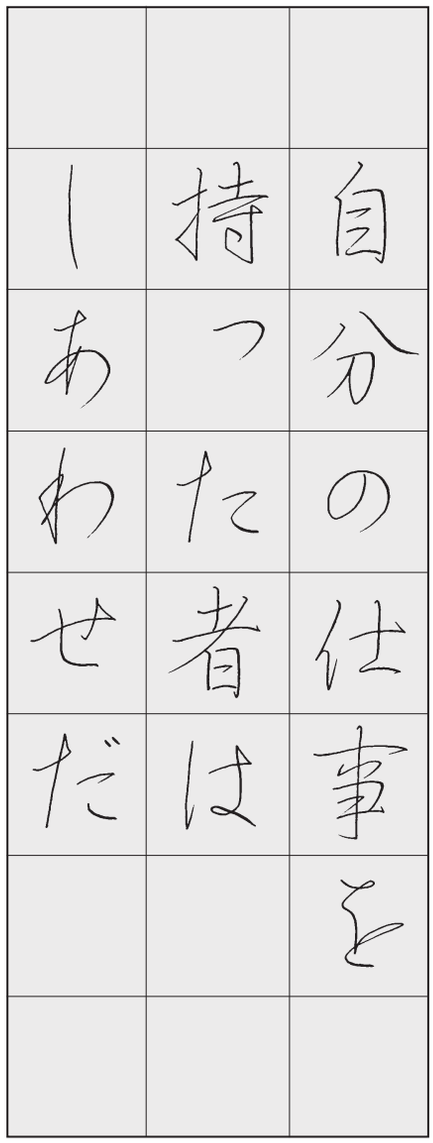
〔作品の出し方〕

▼今回も**硬筆部だけ**に限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。
▼用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。
▼出品制限の対象とはなりません。
▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。
※不明な点は無記入でも結構です。
▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。
▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「**月例**」「**短期特別**」と明記して混同しない様にお願いします。

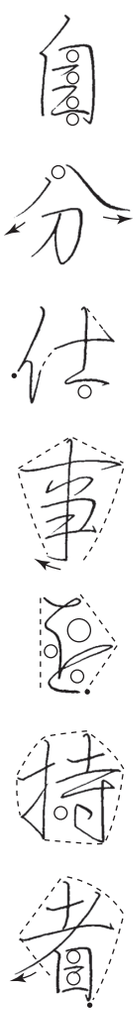
一般部規定課題

締切り　10月24日（必着）

新入から1級まで



〔解　説〕



古田瑞苑（ふるたずいえん）書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★自分の…（書体＝行書）

カーライル、19世紀英国思想家

ここで言う仕事とは定職という意でなく自分のやりたいと思う仕事という意味です。そういう仕事をしている人は毎日才能を思う存分に発揮し社会に貢献できます。それと反対の人は必然的に仕事の能率もあがらず、周囲から無能視され不満な日々を送らなければなりません。

日本のことわざで「好きこそ物の上手なれ」があります。好きな事は上達しやすいという意味で芸事の修行などでつかわれていましたが、カーライルの言った仕事についても言えると思います。

◆**11月課題予告**（楷書）

舟覆りて
すなわち
善く泳ぐを見る

★怠惰は…（書体＝楷書）

ベンジャミン・フランクリン

（一七〇六～一七九〇）

彼は避雷針の発明などで有名な米国の科学者であり政治家でした。そして色々な格言を残しています。これは刃物と人をたくみに比喩している言葉ですが、この様に言っております。

日常使っている刃物は錆びにくく切れるが、使ってないそれはすぐ錆びて使えなくなってしまう。人間も同じく働くべき時に勤勉に働く人はいつでもはつらつとしているが、そうでない人は腕もにぶり、頭の働きも悪くなり最後には使いものにならなくなってしまう。

準初段から六段まで

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

〔解　説〕

新井龍峰（あらいりゅうほう）書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

◆**11月課題予告**（行草または草書）

千里の馬は
常にあれども
伯楽は常にはあらず

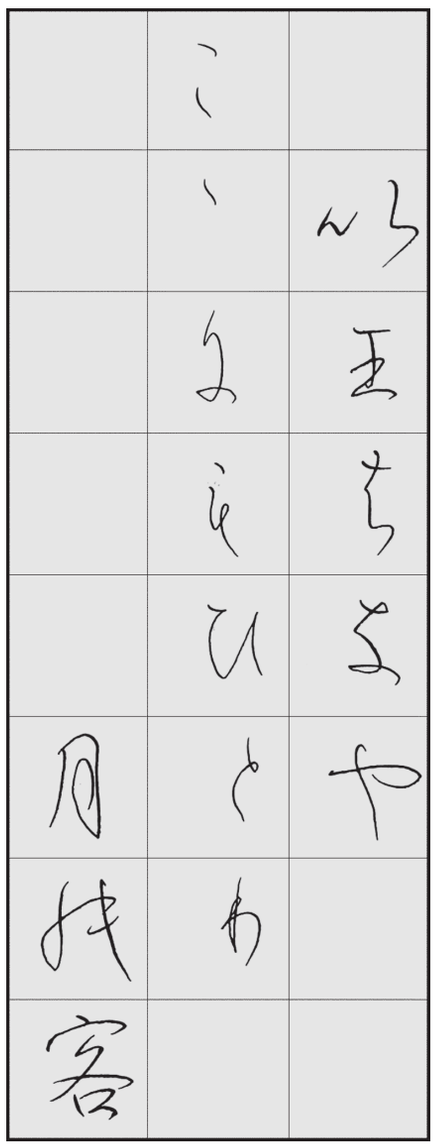
▼教範・書範＝行書

▼師範＝楷書

一般部かな課題

締切り　10月24日（必着）

新入から1級まで



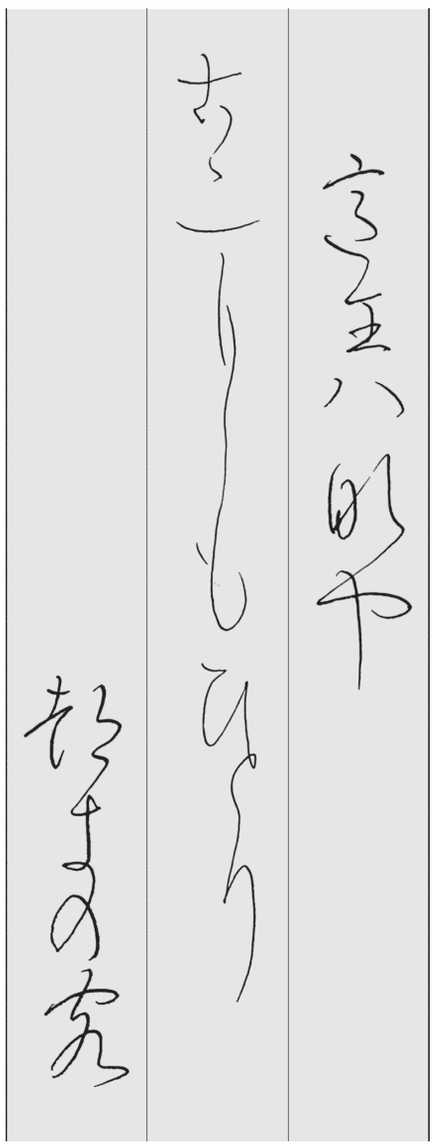
岩鼻やここにもひとり月の客（以王者奈、尓毛、利、能）

田中貴光書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

準初段から六段まで



岩鼻やここにもひとり月の客（意王八那、古、丶、耳、都支）

田中貴光書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

岩鼻やここにもひとり月の客

（向井去来）

〔句解〕去来の創作意図では、明月の夜散歩していると、岩頭のあたりに自分と同様、月を賞でている風流人をもう一人見つけた、の意。松尾芭蕉の解では、その主客の位置を変え、明月よ、ここに私というもう一人の風流人がいますよ、と月に名のった意。

〔鑑賞〕『去来抄』の逸話はあまりに名高い。この逸話が示唆する一つは、発句の鑑賞は作者の創作意図とは別に多義多解が可能であり、むしろ意図に添わぬ方がすぐれたものもありうる。

〔古筆参考〕

意　者　古　耳　能

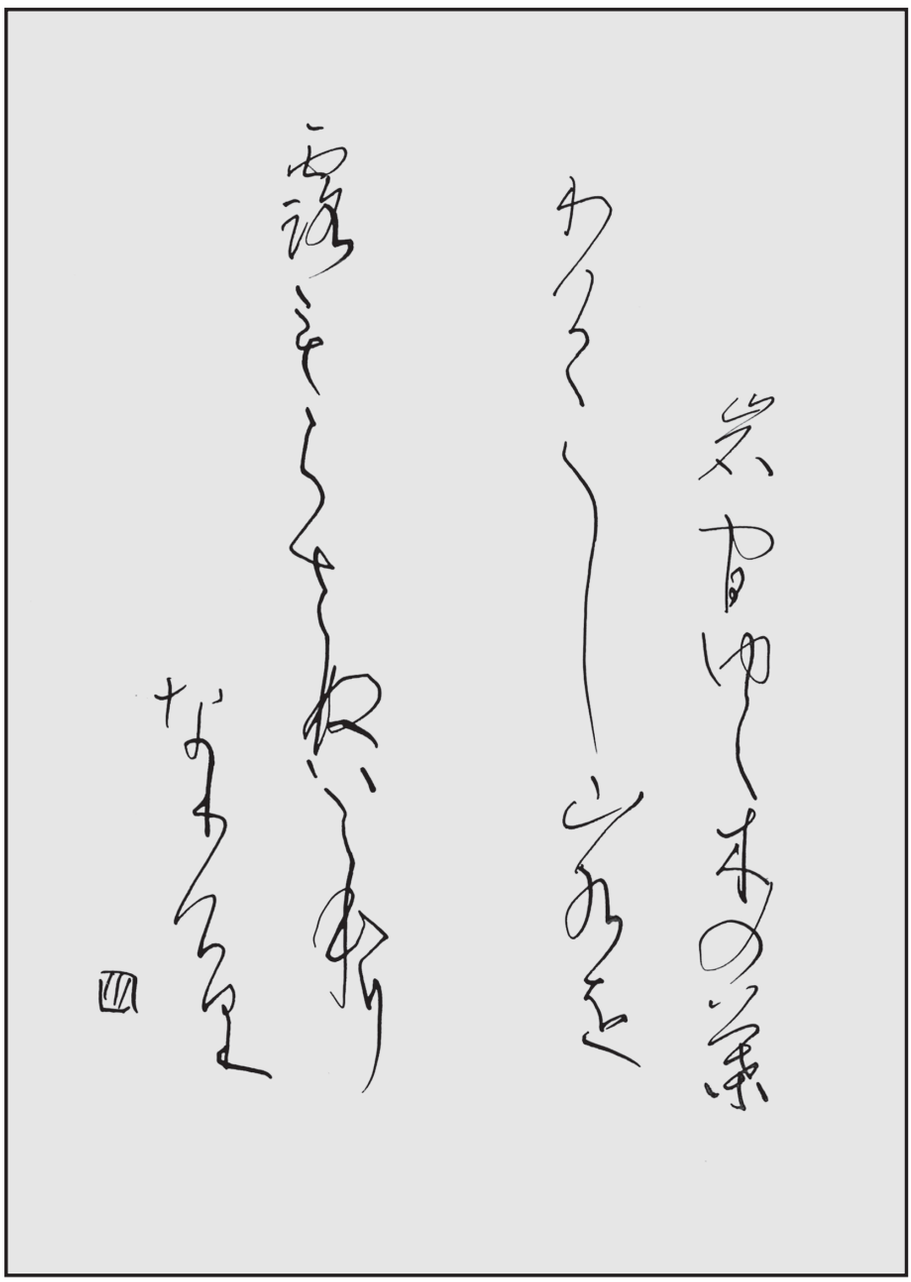
〔解説〕平仮名の中で、大体〈と〉〈わ（利）〉は少し小さめに書いて下さい。

◆**11月課題予告**

ゆく秋も伊良胡を去らぬ鷗かな

（坪井杜国）

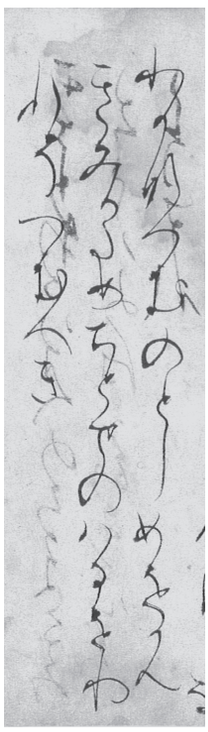
締切り　十月二十四日（必着）



簗瀬舟香（やなせしゅうこう）書

〔古筆参考〕

中務集（なかつかさしゅう）



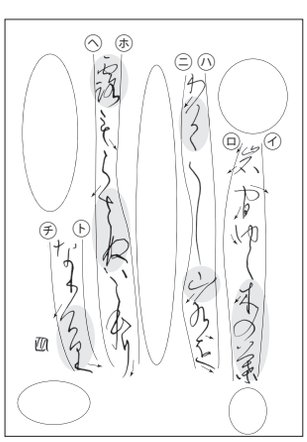
わかなつむのとしめをかん（可那）
きみがためちとせのはる（八）をわ
れぞつむべき（曽）

岩間ゆく木の葉わけこし山水を
つゆ洩（露毛）らさぬは氷（八こ木り）なりけり（利介里）

〔歌意〕 これまでは岩間を通り落葉を分けて少しは流れて来た山水を、全く流れないようにしたのは氷であったのだ。

〔出典〕 新潮日本古典集成

〔解説〕



- ㋑と㋺、㋑と㋩、㋑と㋭、㋑と㋬、㋑と㋮、㋑と㋣、㋑と㋩、㋑と㋭、㋑と㋬、㋑と㋮、それぞれ呼応。
- ◯余白大切。
- ↙線の方向（指向性）大切。
- ●粗・密大切。

◆11月課題予告

吉野山麓（ふもと）にふらぬ雪ならば
花かと見てやたづね入らまし

実用文のページ

締切り　10月24日（必着）

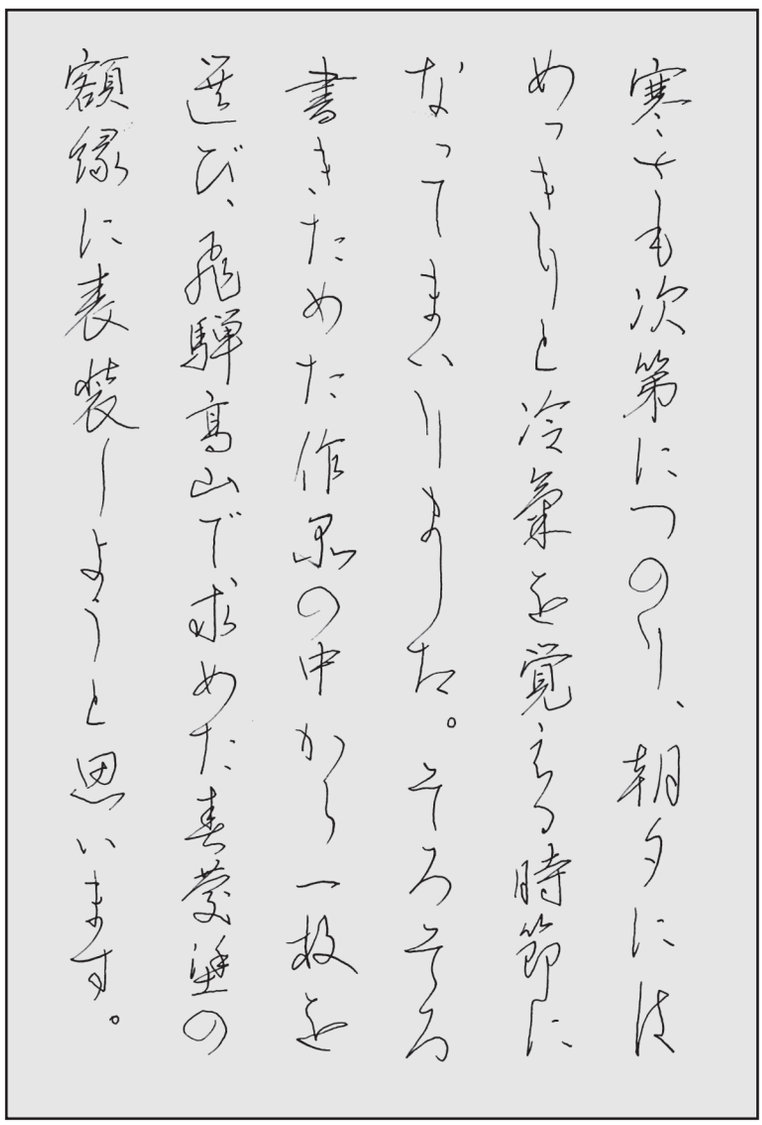
寒さも次第につのり、朝夕にはめっきりと冷気（氣）を覚える時節になってまいりました。そろそろ書きためた作品の中から一枚を選び、飛騨高山で求めた春慶塗の額縁に表装しようと思います。

作品の出し方

- ■新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- ■用紙＝はがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- ■用具＝はがき、横書き課題ともに自由。（黒色に限る）
- ■両課題とも、書体変換は自由です。

はがき課題

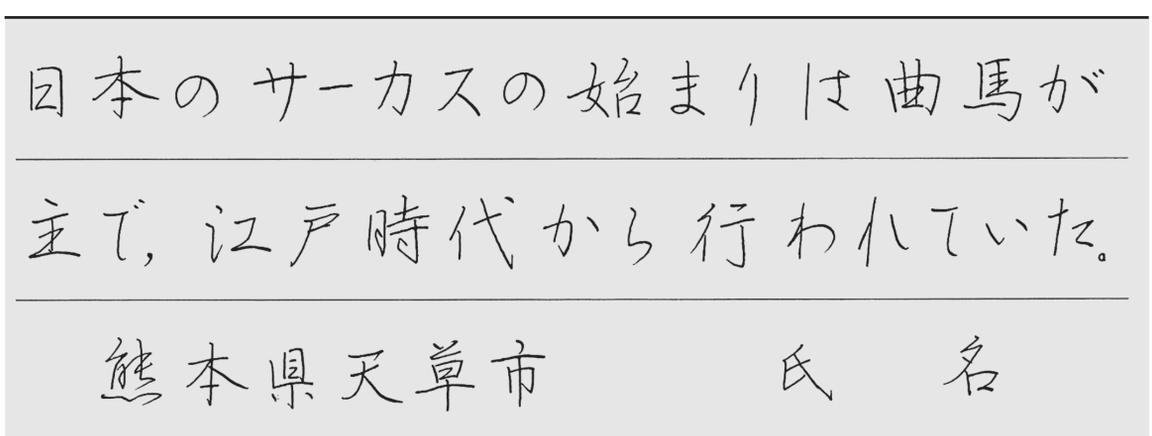
奥田三雲（おくだ みくも）書



※手本は水性ボールペン使用

横書き課題

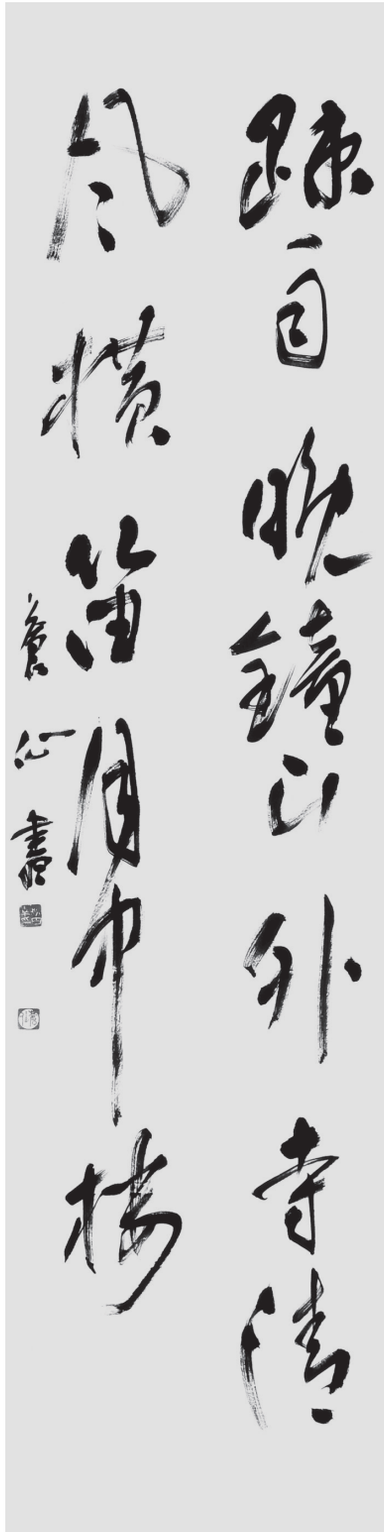
尾郷翠光（おごう すいこう）書



※手本はつけペン使用。　★三行目は、**指定の地名**と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆条幅課題

締切り　十月二十四日（必着）　　**半　切**（一三六㎝×三五㎝）



疎雨晩鐘山外寺　**清風横笛月中楼**

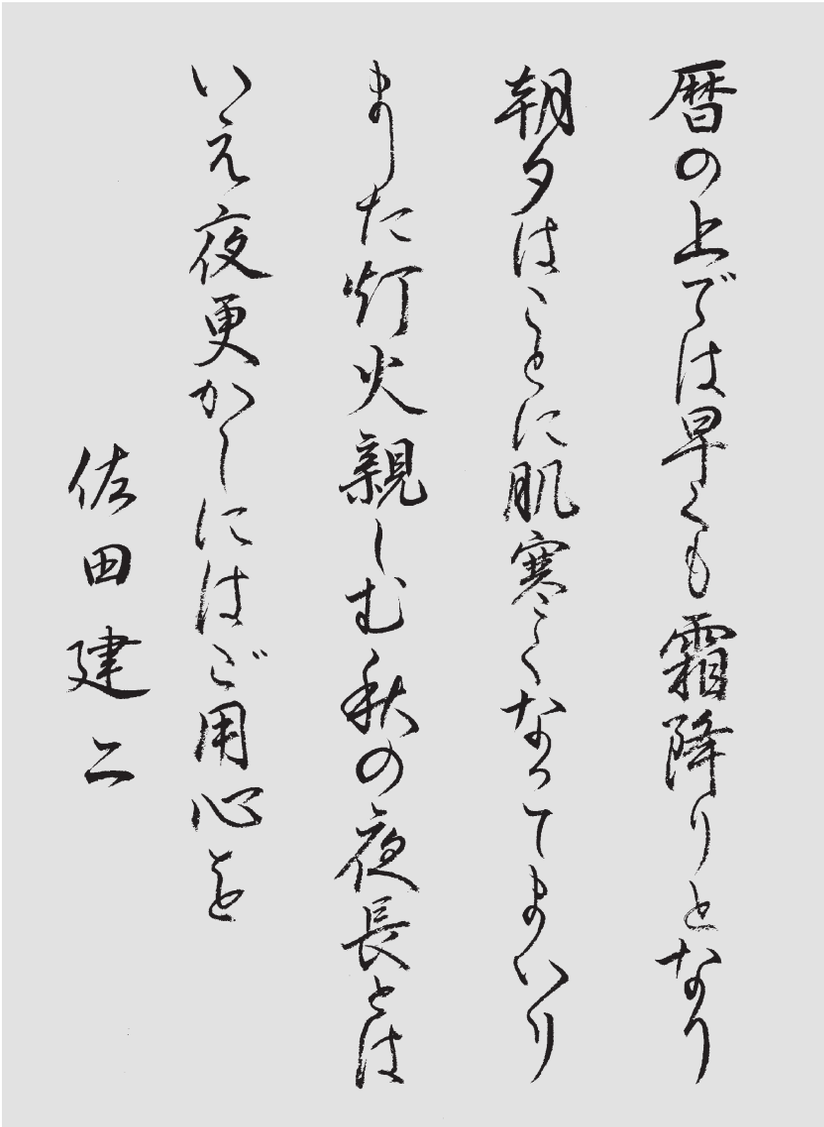
荻田蒼仙　書

〔大意〕 疎雨に夕暮の鐘声がするのは山のふもとの寺で、涼しく清い風に笛を吹くは月のさすたかどのである。

初出品の方へ

支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

一般部毛筆細字課題



半紙（３３４mm×２４０mm）　　伊藤梅香　書

〔条幅解説〕

添削依頼作品を拝見して思う事は、書道誌等を見て書かれる方と師についてちゃんと習われた方の作品の違いは「筆づかい」です。形は似ていますが、線が浮いて甘く弱いのです。「書く程上達する」の言葉には落とし穴があります。書く程、我流、癖が増幅することがあるからです。師の必要なのはここにあります。芸術院賞の劉蒼居先生は「私の本を見て書いてもダメ。私の筆づかいを見るよう」に言われました。書の上達にはこの事が一番の早道だと思います。

暦の上では早くも霜降りとなり
朝夕はことに肌寒くなってまいり
ました　灯火親しむ秋の夜長とは
いえ夜更かしにはご用心を
（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

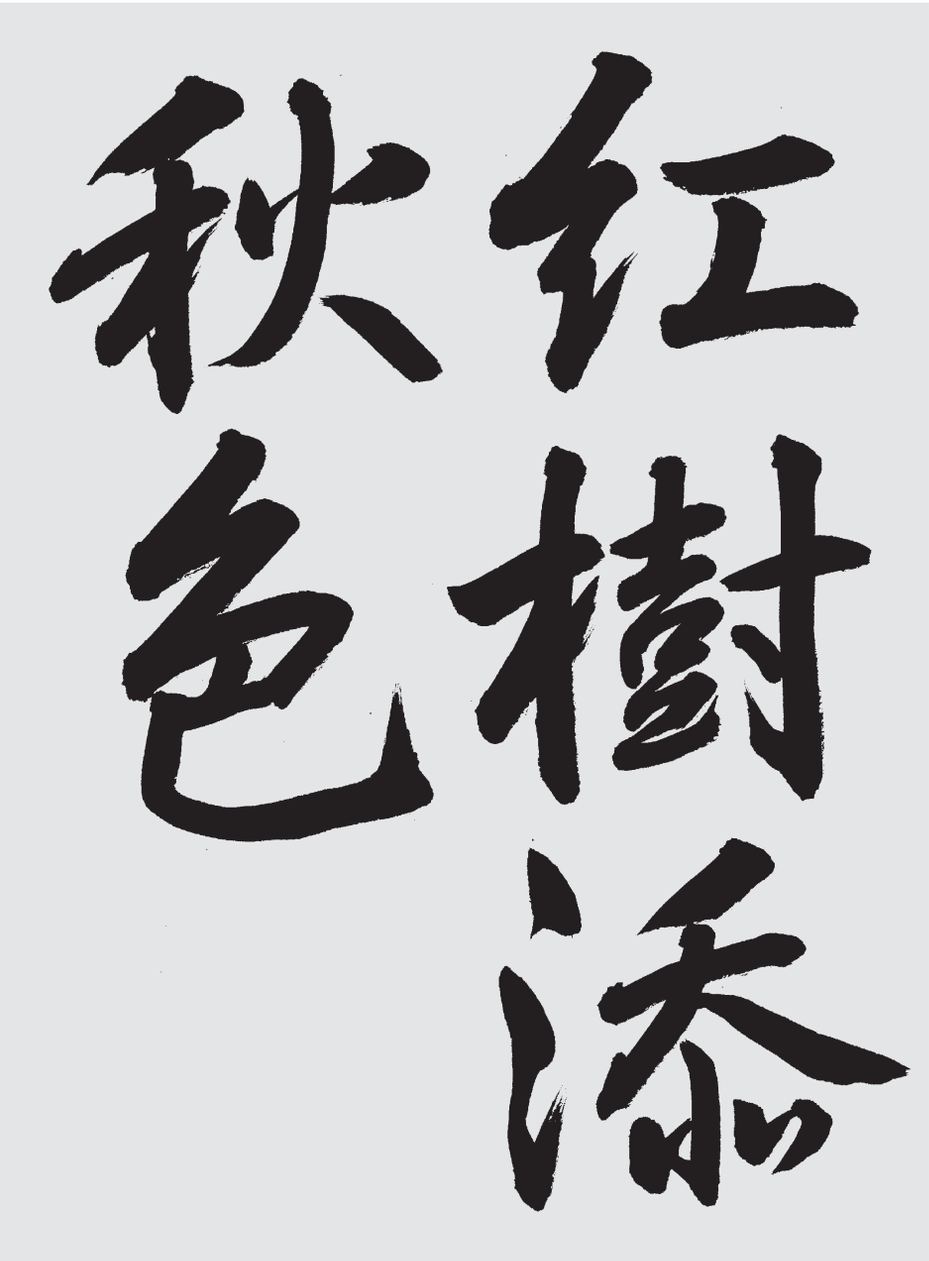
〔条幅・細字作品の出し方〕

■新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■成績（天位～5等）は、評価により毎月かわります。

■書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで（行書）



清水翠芳書

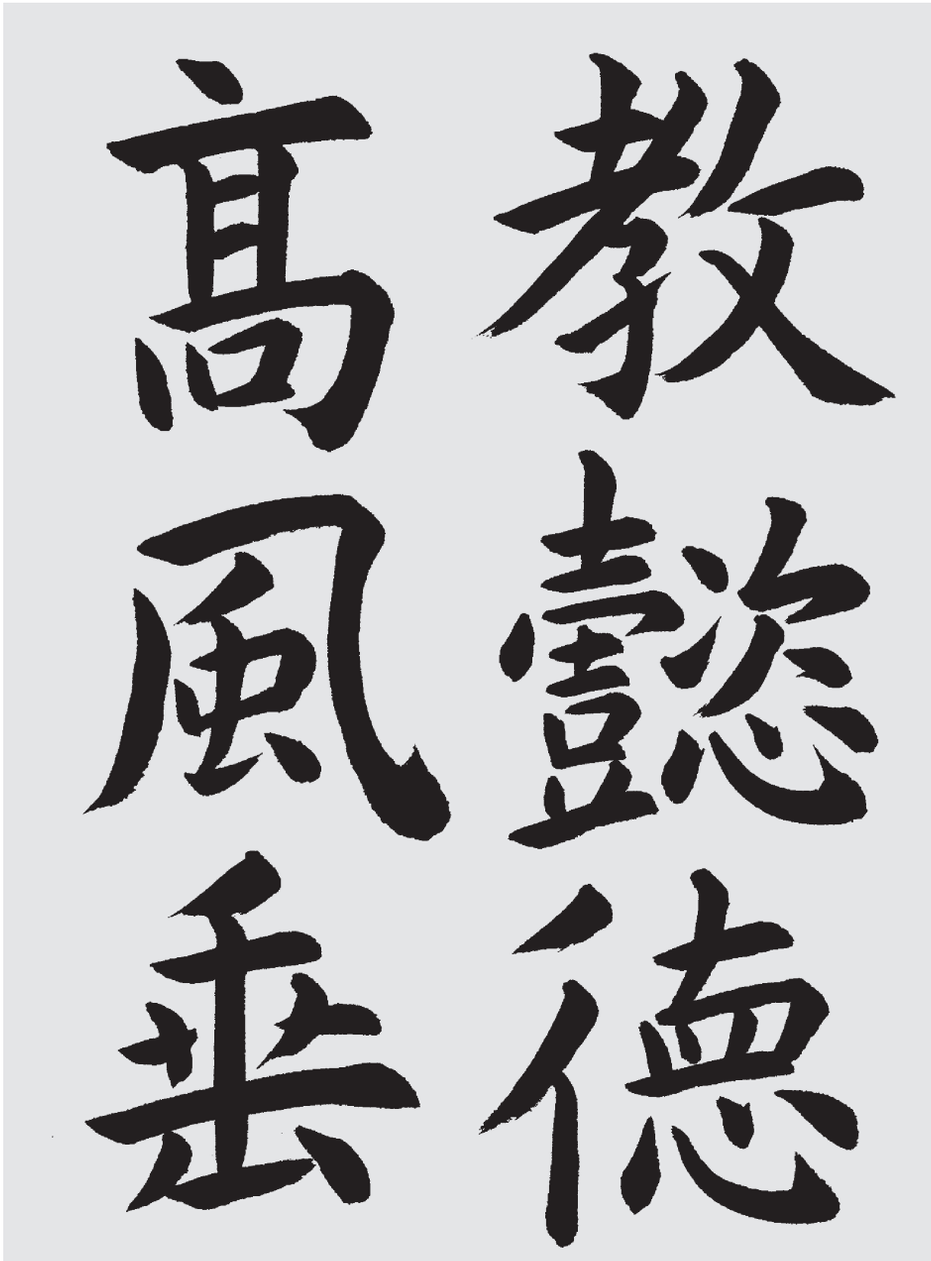
紅樹添秋色（こうじゅしゅうしょくをそう）

〔大意〕霜の為に赤くなった木の葉が、秋の景色を面白くする。

〔解説〕

◆11月課題予告（楷書）

準初段から師範まで



須田一葉臨

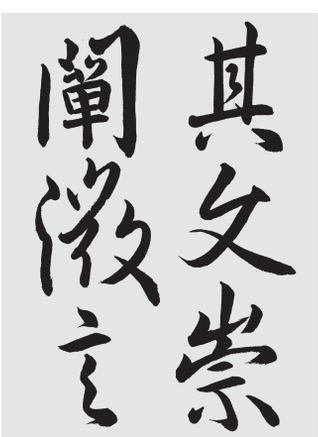
教懿徳高風垂

〔出典〕孔子廟堂碑（六二六～六三三）
〔筆者〕虞世南（五五八～六三八）
〔読み〕教に（明らかなり。）懿徳高風、垂（衮斯くも）

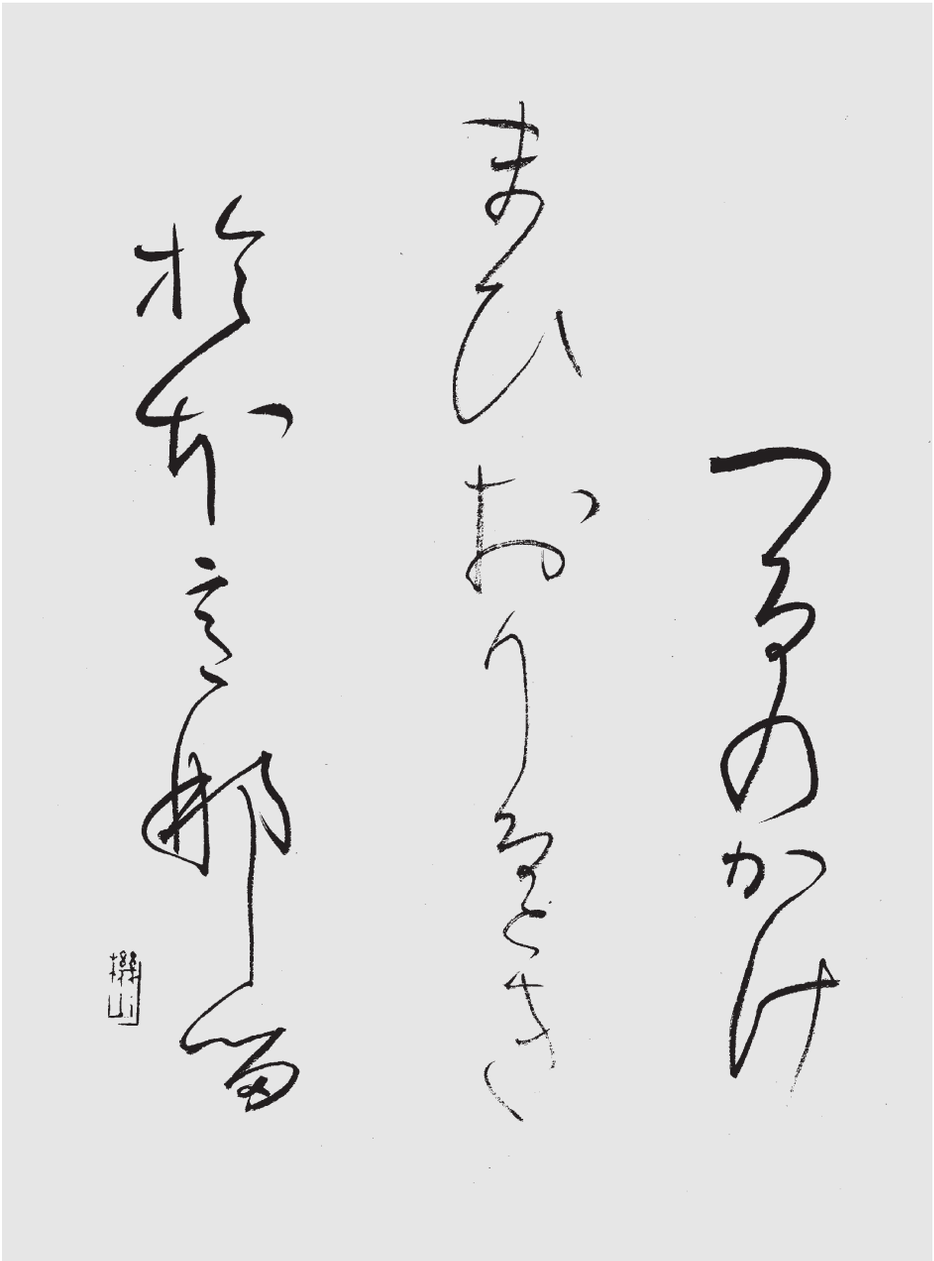
〔解説〕

※文献によって字体が異なる場合があります。

◆11月課題予告



新入から1級まで



浅井機山先生書

鶴の影舞ひ下りる時大いなる
杉田久女

〔句意〕鶴の飛翔に見とれていたが、ふと近くに降りて来る鶴の、大きく美しい姿におどろいたのである。端正な美しい鶴の姿への賞賛の念が表れた句。

◆11月課題予告
遠山に日のあたりたる枯野かな

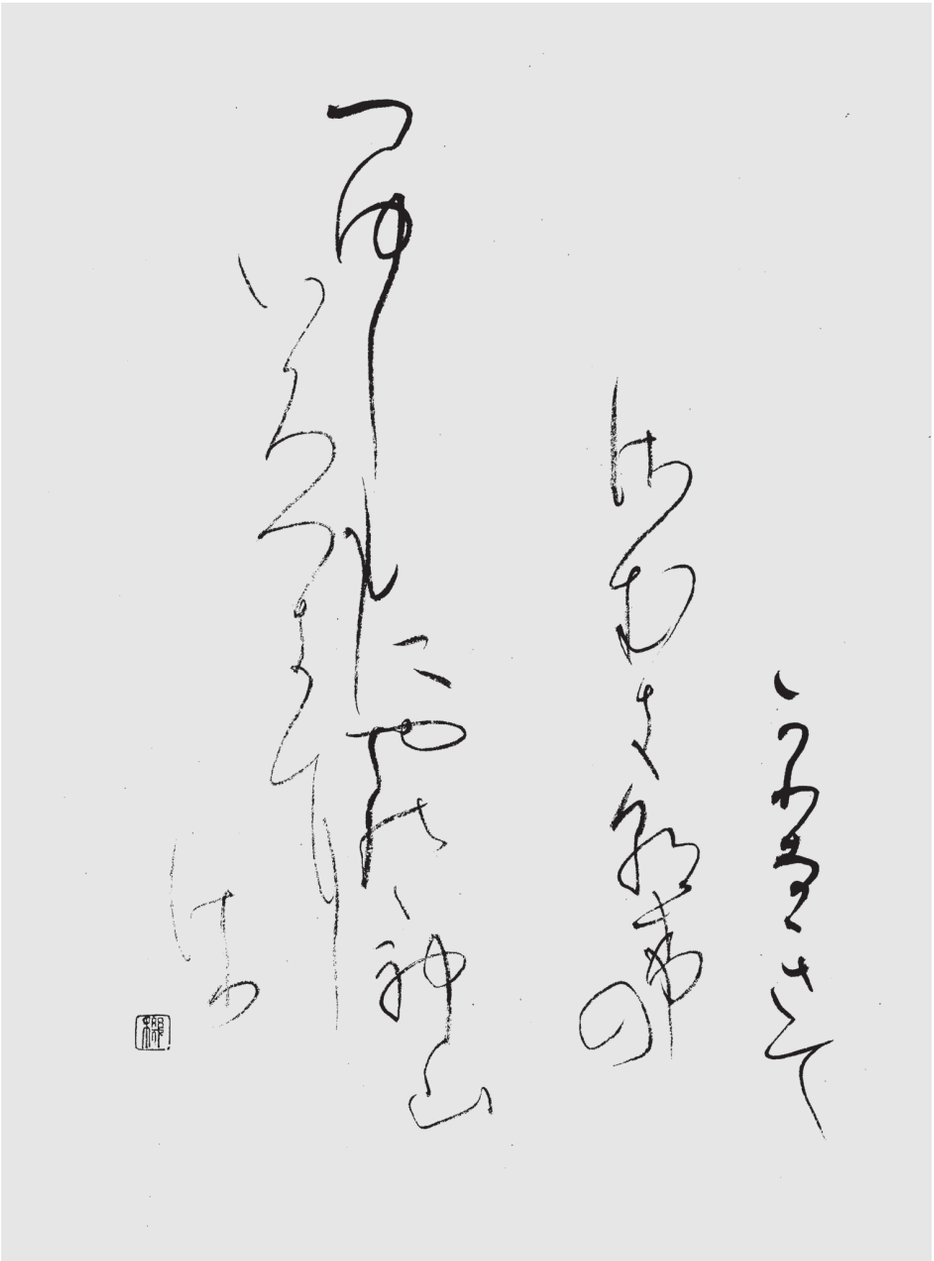
〔解説〕
まず全体を見てみましょう。
3行で並んだ行間は、第1行と第2行の行間より、第2行と第3行の行間の方がやや広い感じです。〈行間の広狭〉
もう1つは、第2行の下の方、「ると」が小さな字でぎゅっと詰まった感じになっています。
それでは、1行ずつ見ていきましょう。

「つるのかけ」
「つ」、しっかり突いて（蔵鋒）、やや右上がりにユックリ→ややハヤメて引き、↓曲線はオソク回って、↓回り切ったら連綿線をハヤク。基本のリズムで書き出してください。
「る」、から全体として少しずつ速度を上げていきます。もちろん角はしっかり止まって毛先を立て、次画へ移行します。
「け」を少し右に傾けています。

「まひおりるとき」
「ま」、縦画を右に倒して、動きある字形にして「ひ」へ連綿します。
「ると」、小さく詰めてこの行を（全体もですが）ひきしめます。ただ「き」をゆったり書いたことにより、大らかさを作りました。

「於本意那留」
「於・那・留」、は〈草仮名〉で、万葉仮名を草書体にして仮名として使います。
さらに崩していくと平仮名〈女手〉になります。

準初段から師範まで



浅井機山先生書

鴈なきてさむき朝けの露霜に
やのの神山いろつきにけり

「新勅撰和歌集5秋337」源実朝

〔歌意〕雁が鳴いて寒い朝明け露霜のために、矢野の神山が色づいたことだ。

◆**11月課題予告**
夕されば佐保の川原の川霧に
ともまどはせる千鳥なくなり

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

第1行から第2行の行頭が上がり、さらに第2行から第3行の行頭がより大きく上がっています。

次に、全体のメインの第3行の行頭から第4行は下がり、最後の行はさらにストンと下がります。

さて、1行ずつ見ていきましょう。

「可利奈きて」

「可」、最初の点は、上から舞い降りてターンとたたいて、また跳ね上がります。

「利奈」、跳ね上がったのが着地して、やや太めに小さく歩き出し、

「て」、細くして1行に変化を作ります。

「佐む支朝希の」

「佐む」、余白に大きく動き、「支」で小さく支えて、又大きく「朝希」と書いて、「の」を添えます。第1行と比べて大きな字で変化を作ります。

「つゆしもにや能丶神山」

「つゆ」、墨継ぎして力強く、「つ」から「ゆ」への連綿は〈反動法〉の手法を使い、「ゆ」がくるくる回ってから「し」への連綿は「ゆ」の終画がそのまま連続していく〈省略法〉です。

「いろつ支耳」

右行に寄り沿って右行を盛り上げます。

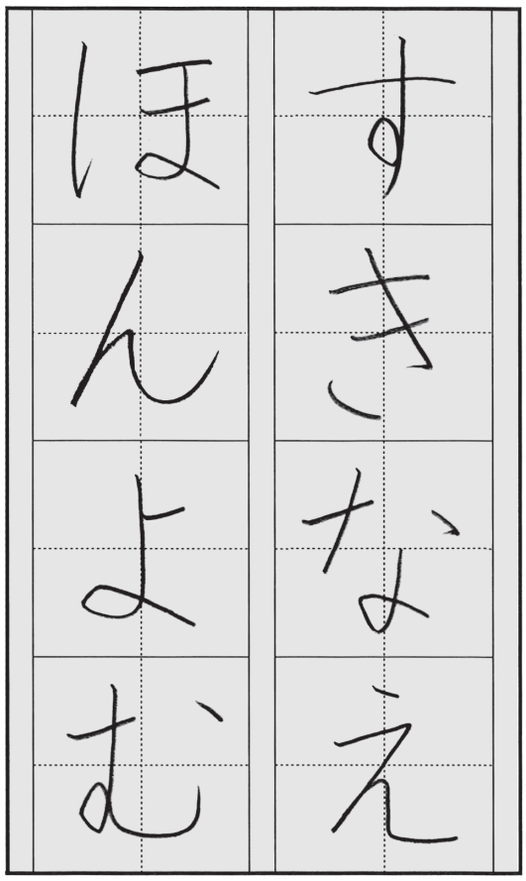
「け利」

全体の締めくくりを雅印と共に、いい位置に書き安定させます。

教育部硬筆課題（きょういくぶこうひつかだい）

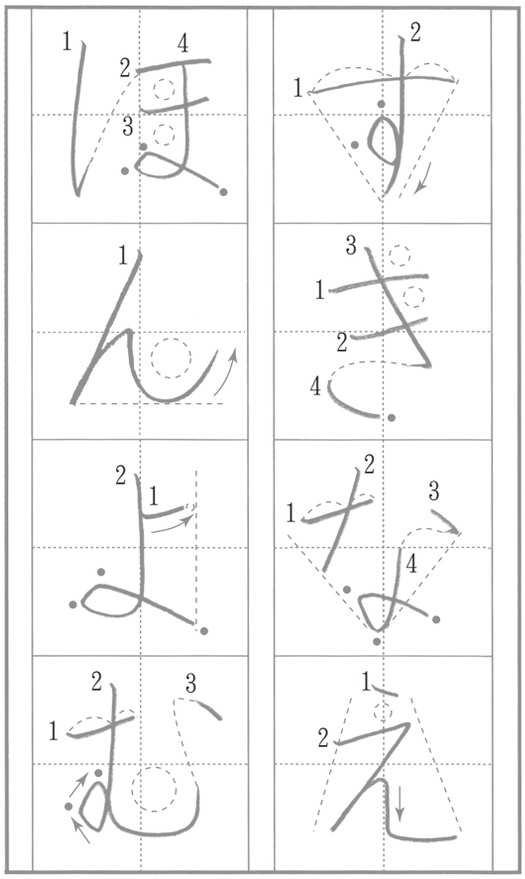
しめきり　１０月２４日（必着）

ようう年



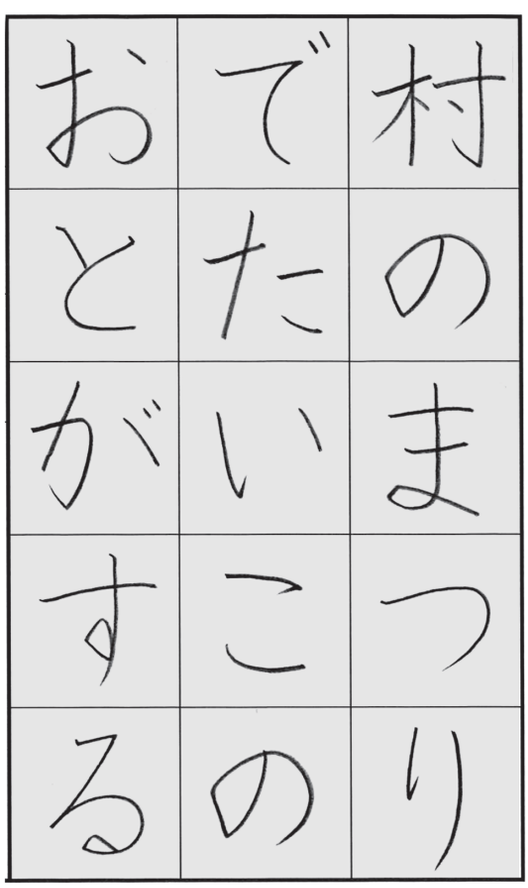
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング（なぞってかいてみよう）



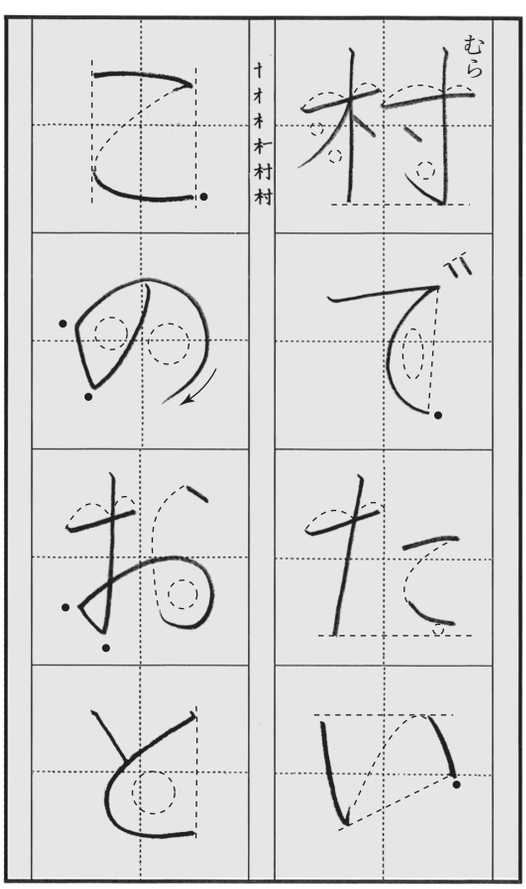
〈ようぐ〉自由（黒色にかぎる）

小一年



（注）えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準初段以上



新入〜1級

幼年〜小三年まで　三宅容玉書（みやけようぎょく）

小二年

赤ちゃんが
自分ひとり
の力で立つ

準初段以上

〈ようぐ〉自由（黒色にかぎる）

自分ひと
りで立つ

新入～1級

小三年

家族みんな
まゆ毛の形
が同じだね

（注）えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準初段以上

まゆ毛の
形（かたち）が同（おな）じ

新入～1級

教育部硬筆課題

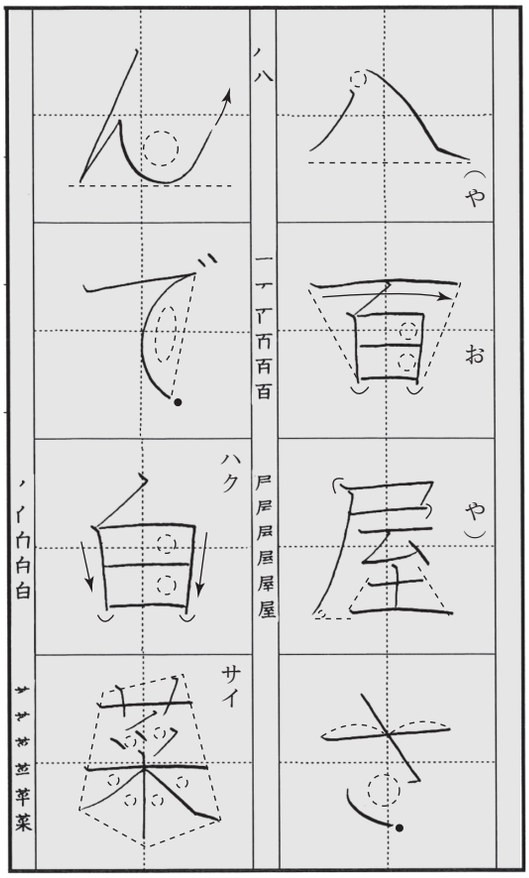
しめきり　１０月２４日（必着）

小四年

八	百	屋
で	白	菜
だ	豆	を
買	う	

準初段以上

※八百屋（やおや）＝単語としてこのように読みます。



新入～1級

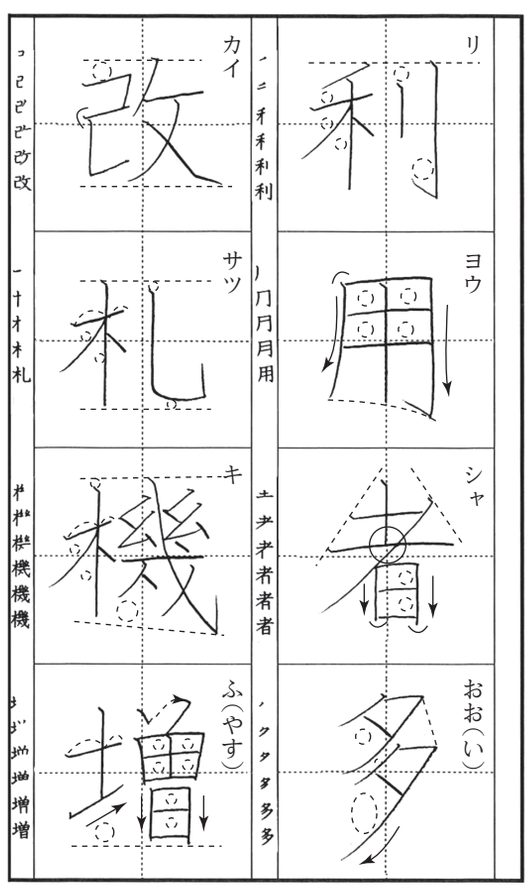
〈用具〉自由（黒色に限る）

小五年

利	用	者
い	の	で
機	を	増
や	す	

（全員）

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



解説（よく見て習いましょう）

小四年以上　岡嶋桂川書

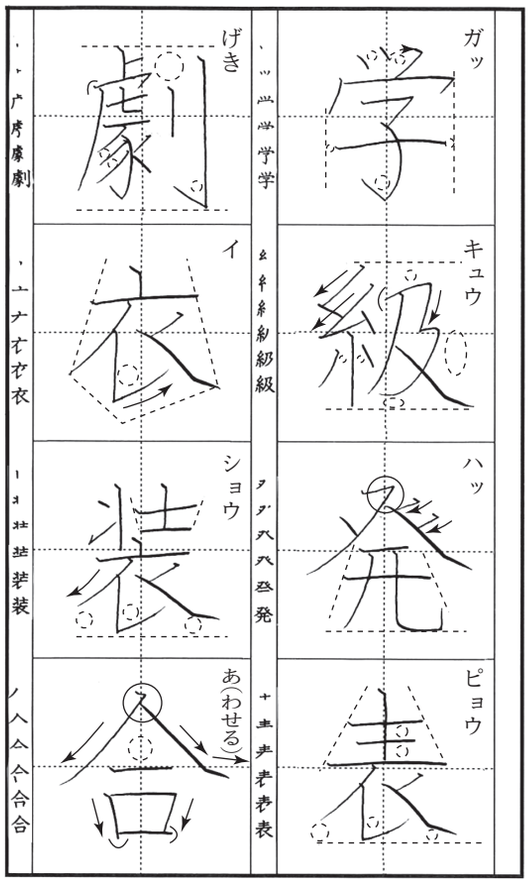
教育部硬筆課題

しめきり １０月２４日（必着）

小六年（全員）

学	級	発
表	す	る
劇	の	衣
装	を	合
わ	せ	る

解説（よく見て習いましょう）



〈用具〉自由（黒色に限る）

中一年（行書）

風	で	折
れ	た	枝
を	添	え
木	で	応
急	処	置

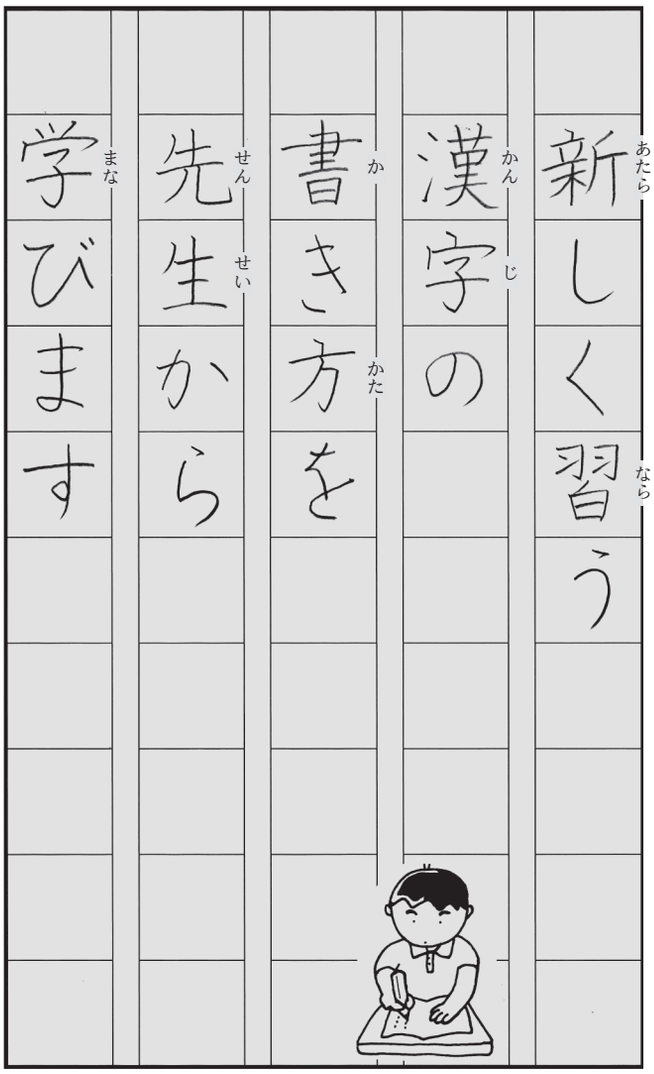
中二・三年（行書）

明	治	神
宮	の	行
き	方	を
詳	し	く
尋	ね	る

こどものひろば

しめきり　10月24日（必着）

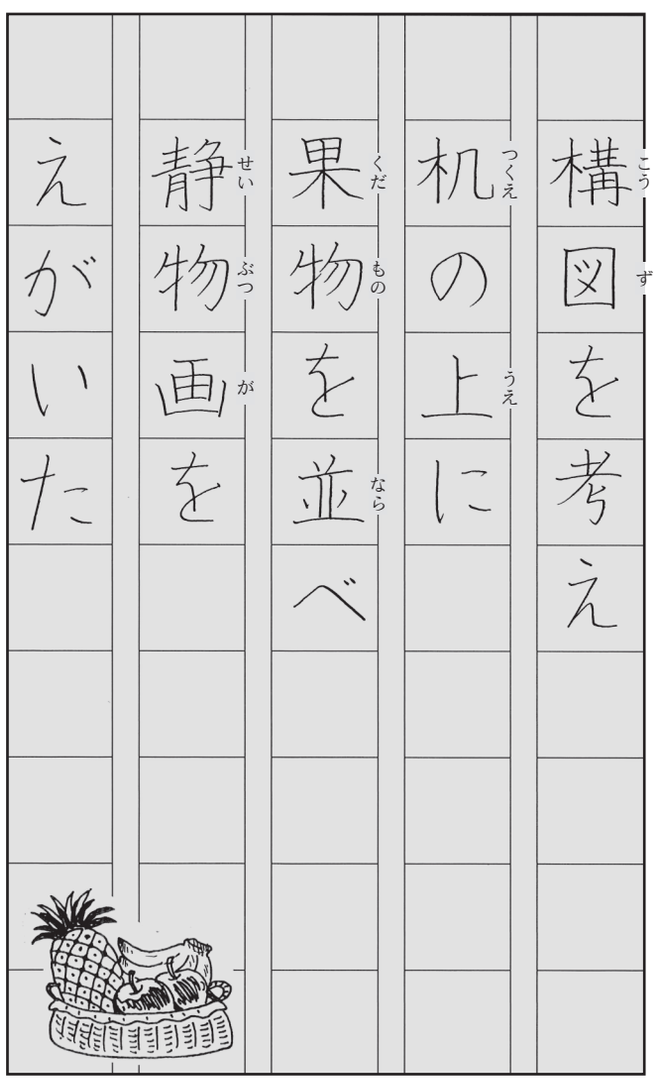
▼小三年以下の課題　伊藤汀香書



◎お手本はえんぴつ使用

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題　近藤雅洸書



◎お手本はつけペン使用

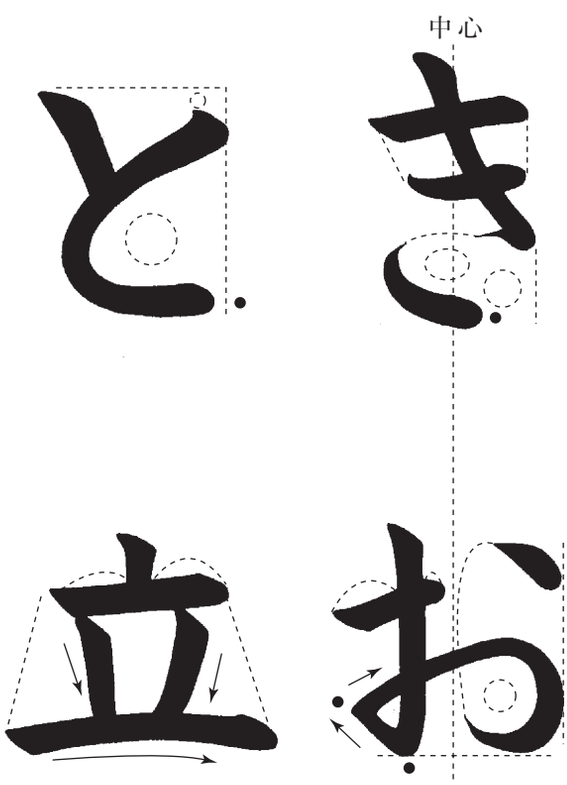
◇作品の出し方

一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
一、成績は評価により毎月変わります。
一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。**貼っていない方は新入とみなします。**

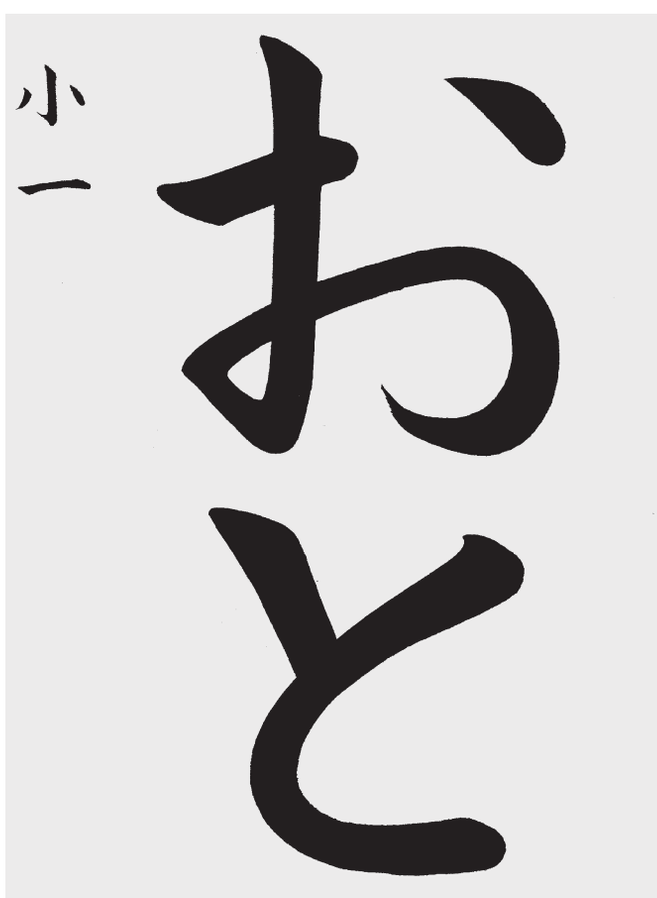
幼年～小二年　酒井智仔書

小二

さい



小一



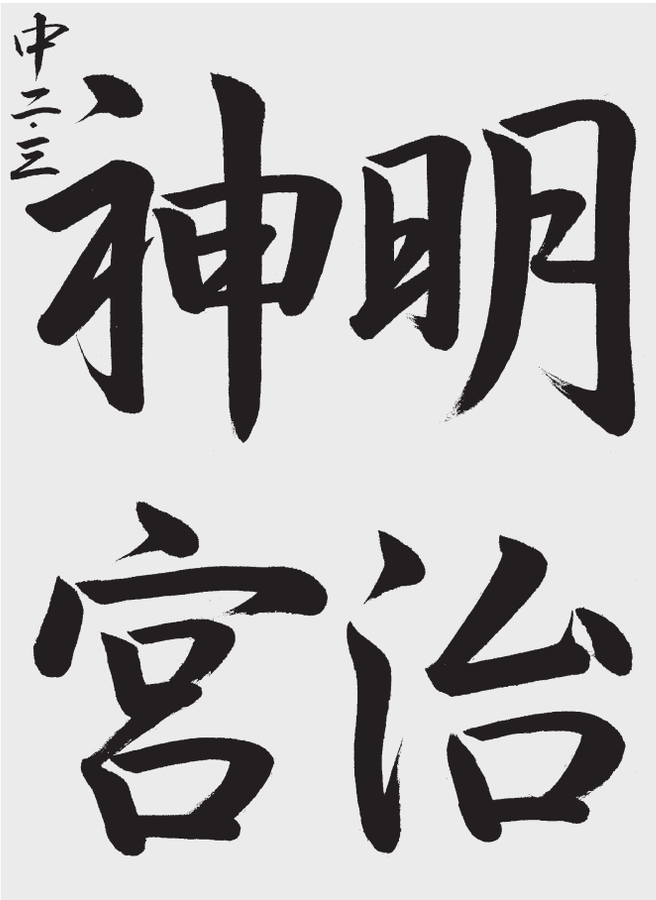
小三〜小五年　水野碧友書

教育部毛筆課題

しめきり　10月24日（必着）

小六～中二・三年　玉樹小華書

中二・三



小六

中一

※行書は連なりよく運筆し、丸みをもたせる。